こんな すてきな人に 会ってきました

特定非営利活動法人ワークスみらい高知 竹村利道さん

高知発、障害者就労支援に新しい風

NHKの大河ドラマ『龍馬伝』で俄然注目度の高まる高知県。今回は、その高知県で工場併設のカフェやお弁当屋さんなどを運営し、障害者の就労支援に新しい旋風を巻き起こす「特定非営利活動法人ワークスみらい高知」の竹村利道さんにお話を伺ってきました。

大学卒業後は医療ソーシャルワーカーに

南国特有の澄んだ明るい日差しのもと颯爽と現れた竹村さんは、中学時代に日本テレビ系列『24時間テレビ』を見たことがきっかけで福祉の道を目指すようになり、駒澤大学文学部社会福祉学科卒業後は、高知市内の病院で医療ソーシャルワーカーとして活躍。ところが、退院後数か月も経たないうちに同じ患者が再入院する事例を何度も目の当たりにし、「病院で最善の医療を施しても、戻るべき地域での受け皿が無ければ意味がない。もっと地域のあり方を考えてみよう」と3年間勤めた病院を退職し、高知市社会福祉協議会に転職しました。

市社協での15年間

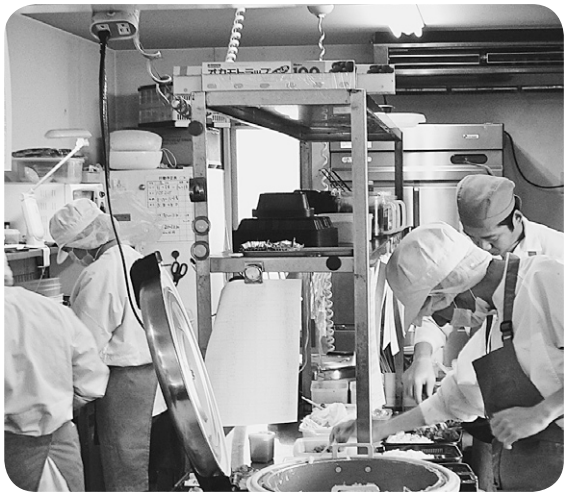
市社協では障害者福祉センターでソーシャルワーカーとして勤務されていましたが、ここでの体験は竹村さんに様々な葛藤をもたらしました。〝かわいそうな障害者のために何かを与えてあげる〟という従来の福祉のあり方、時給50～100円程度の工賃しかもらえていない利用者の現状、高度な作業は利用者には無理と決めつけてしまう周囲の人々のことなど、枚挙にいとまがありませんでした。しかし、その一方で、自分自身の給料は紛れもなくこの状況から生み出され、また、利用者から頼りにされることの心地良さに酔いしれ、「旧態依然の福祉や周囲を批判するくせに、自分自身は安泰な場所に居続けている。こんな自分のスタンスが利用者の自立の芽を腐らせているのではないか」と矛盾を自覚しながらも気がつくと15年の月日が流れていました。

不惑にして商売の厳しさを知る

不惑の歳であった2004（平成16）年、市社協を退職。すでに少しずつ始めていた特定非営利活動法人ワークスみらい高知の活動に本腰を入れることに決めました。退職と同時に障害者の就労支援のための有限会社を設立し、NPO法人と共同でカフェ等を経営しました。しかし、営業活動を怠ったこと、流行り廃りのある商品に手を出したこと、利用者やスタッフに当初の宣言どおりの給料を最後まで支払い続けたことなどが原因で、1年も経たないうちに市社協の退職金はおろか貯金もすべて吹っ飛び、手元に残ったのは借金だけ。結局、有限会社は整理し、NPO一本で振り出しからスタートしました。

失敗と葛藤から生まれたポリシー

有限会社の失敗を機に、竹村さんは商品について熱心に研究し、地元の商工会議所に通って商売に必要なネットワークをつくり、飛び込みの営業活動を行うようになりました。その際は以前の葛藤や実体験から、①障害者や福祉を〝売り〟や言い訳にしない、②一定レベルの利用者の時給を県の最低賃金額以上にする、③障害者に理解がある福祉関係者や自身の知人を避けて一般の人をターゲットにすることで品質とサービスに緊張感を保つ、④利用者の可能性の芽を摘んでしま


m's kitchtn利用者が精魂こめてつくっています

わぬよう、各店舗の現場スタッフには障害者の特性をよく知る福祉職を配置しない（福祉職はトータルコーディネーターとして法人本部の一部門に集結）、⑤ケーキ類やうどんなど飽きのこないもので勝負する、というこの5つを強く意識したそうです。これらに加え、定期的なメニュー更新、安くてボリュームのあるモーニングセットの常時提供、並んで待っている間のお茶・膝掛け・雑誌のサービスなど、竹村さんが日ごろ消費者として感じていた不満への解答や理想をここで体現することで、一般のお客さんから選ばれるお店へと成長を遂げたのです。

一般就労者を毎年10名以上輩出

幹線道路沿いのお弁当屋さん「m's kitchen」、その幹線道路を挟んで向かいに立つカフェ「m's place」、工場倉庫街にある惣菜・うどん工場併設店舗「m's factory」とお菓子工場併設カフェ「STRAWBERRY FIELDS」などの5店舗の売上げは数億円にものぼります。さらに、長らく荒れ果てていた空き店舗や倉庫がきれいで明るいお店になった上に家賃収入までもたらしてくれると、各店舗の土地所有者である地元の方にも喜ばれてWin－Winの関係が築けたと竹村さんは胸を張ります。そして、肝心の利用者の就労支援の面ですが、毎年10人以上の利用者が地元のホテル、スーパー、ドラッグストアなどへ一般就労を果たし、また、一定のレベルに達している就労継続A型利用者50名には、県の最低賃金額以上の給料を支払うことができているそうです。

カフェ m's place店舗

デザートカフェ STRWBERRY FIELDS の店舗入口

企業はチャンスをくれる

「挨拶できない、遅刻・無断欠勤、接客や調理にそぐわない不衛生な身なりなどは、障害の有無に関係なく、ビジネスの世界では誰もが敬遠します。ここで障害者であることを理由に許しを請うのは単なる甘えです。ですから、利用者には基本的生活態度を徹底的に教え込みます。企業は決して障害者の就労支援に冷たいわけではなく、基本的生活態度の備わっている障害者にはチャンスを与えてくれるのです。問題はむしろ、一般就労を果たすこと自体が就労支援のゴールだと勘違いされて、一般就労後に定着して働き続けるためのバックアップ体制が薄い点でしょう。一般就労後の利用者と受け入れ企業双方へのフォローには、今後も力を注いでいきたいですね」と竹村さんは語ります。

今後は

今後の竹村さんの目標は、年間20人の一般就労者の輩出と、犯罪歴のある障害者や、過去に挫折してしまった元利用者など手厚い支援を必要とする障害者100人に県の最低賃金額を払えるような支援体制を整えることだそうです。その目標を達成すべく、3月には「和」をコンセプトにした新しいカフェを、さらに22年度中には5店舗での就労訓練に至るには当分時間のかかりそうな利用者のための研修センターの開設を予定するなど、快進撃を続ける竹村さん。

失敗や葛藤をバネにし、「いたって普通の人間です、邪念に押しつぶされそうになることも度々ありますから（笑）」と常に冷静に自身を顧みる竹村さんの前には、きっと輝かしい〝みらい〟が待っていることでしょう。

【プロフィール】

たけむら としみち

・特定非営利活動法人ワークスみらい高知・代表
・1964年高知県高知市生まれ
・駒澤大学で社会福祉を専攻後、高知市の総合病院近森病院で医療ソーシャルワーカーとして3年間勤務。
・新設された市の障害者福祉センターに転職し、その15年間で障害のある人の地域生活の実態を知ることとなる。
・2002年からは、地域生活の中でも特に“就労”に的を絞りNPO活動を開始。
障害者自立支援法に参入後、障害のある人の働く場づくり、企業への就労をつくり出している。

座右の銘は、「事実は真実の敵なり」
（ミュージカル「ラ・マンチャの男」より）

特定非営利活動法人ワークスみらい高知
〒780-8011　高知県高知市梅ノ辻9-9
TEL：088-879-0345　FAX：088-879-0346
http://www.worksmirai.com/